

2月号

1月25日

… 雨でも休まず：第149・150回 …

「若柳・嵐山の森」から

◎ 定例活動：2月 4日（第一土曜日）森林整備

* 協力協約D地区／3月末が契約期限、追い込み。参加費300円

◎ 定例活動：2月 20日（第三日曜日）里山交流

* 極寒の作業は辛い。辛い事が楽しい。 参加費500円

* 飯は主食だけ持参、体の暖まるものを食わす。

* 終了後、全体運営会。FSC認証と県／協働事業の経過報告。

■ 必ず申込：ボランティア保険加入と食材の準備に必要。

* T&F 03-3411-1636、メールもOK。

■ 初参加者：JR相模湖駅前：9時15分集合。

JR高尾発：8時42分、9時02分に乗られたし。

○ 用 装：滑らない足下、汚れて良い格好、作業手袋は革製が安全。

○ 持 参：保険証写し、作業はきついが、活動を楽しむゆとりと心構え。

水源地区が立ち行くために

戦争完遂のために電力や灌漑が必要で相模ダムを作った。地区の人々は土地を強制収用された。相模ダムが出来たが水利権は、横浜・川崎・県のものになった。林業が壊滅的な状態までに疲弊し、相模湖ダム周辺の観光も時代の波に取り残された。

産業のない相模湖町・藤野町は、神奈川県で一番二番の赤字財政で相模原市に合併されないと立ち行かなくなっている状況だ。

合併可否の論議は大切だが、東京・横浜の2000万人口、都心から1時間の距離、風光明媚な水源の森と湖という偉大な財産を持っているのだから、先行き不透明な問題で分裂するより皆で力を合わせて地域財産を生かす知恵を出した方が賢明と思う。

心を合わせて希望の持てる話し合いの方が不毛の論争より遥かに楽しいじゃないか。津久井地区独自の特性を發揮すれば、地域の独自性と豊かな生活が保証されるじゃないか。森と湖という平和の資産を生かす事が津久井地区の生き残る途だ。

● 定例活動報告：1月16日(第一土曜)：今年、最初の活動

天気予報は雨で“大当たりい～”で真冬の霧降る極寒の朝。

以前なら冬のこんな日に何も好き好んで来る人ないさ…、と断言したくなるのだが今は、そんな事さえ頭を横切らないのだ。相模湖駅に降りた時の条件は、更に悪い。霧が雨になって路面の雪が溶けだしてビショビショ。そんな日、予定オーバーの41名人が森に集まった。

盛大に焚き火して寒さをごまかして簡単な朝礼と先ずは、森の入り口にある“若柳の森神様”に園田総隊長の先導で“二礼二拍手一礼”的正式の作法に従って昨年のお礼と今年の意義ある活動を祈願した。

次いで、この森を貸して下っている鈴木重彦様ご一家への挨拶に向かう。こここの森を守って来た鈴木家の16代目の重彦オジイサンと17代目のご子息の史比古(ヒコ)さんは既に、庭先に出て待っておられた。

先ずは年賀の挨拶／新年、明けましておめでとうございます…と全員唱和で称え、次のように報告した。

1、草の根運動としては世界では初めての“都会の普通の人々に依る／森林国際認証”的申請書を提出

させて頂ました…4月予備審査・6月本審査・問題なければ8月認証となります。

2、本年から神奈川県との森林協働事業(3ヶ年計画)が決定致しました。ありがとうございます。

重彦オジイサンから以下のようなご丁寧な返礼を頂いた。

「私は今年87歳になります。皆さんと一緒に森の中で働く事のできないようになりましたが、皆さんのが熱心に森を守る活動をして下さる事で森に希望が持てるようになっています。林業政策は行き詰まっていますが今年から県との協働事業も始まるとの事です。今年は希望の年になりました」

お年を感じさせない豊饒(かくしゃく)したお元気さとお言葉で、このご一家のお陰で当会はこうし活動を積み上げる事が出来る。改めて森の神様のお引き合せと鈴木様ご一家への感謝を思うのである。

新年会場／旅荘：五本松から迎えを待つ間、町道・林道の雪カキなど軽作業して身体を暖めた。

新年会

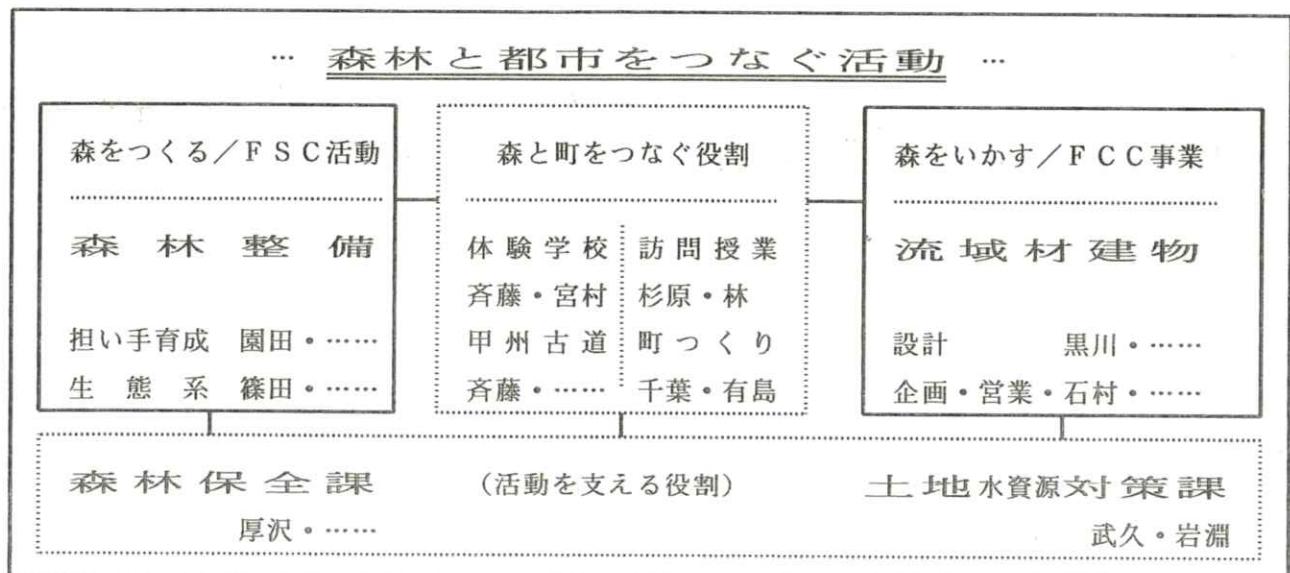
マイクロバスに2回のピストン輸送になった。会場設営を待つ間、武藏工大の宮内院生の当会活動も取り入れた森林に関する研究発表を映像で見た。内容は、素晴らしいもので今後、当会の独自研究も参加させて欲しいと申し入れた。

伊藤小夜子・白石晴輝仲間の“準備万端・仕上げをご覧じろ”的司会・進行による新年会は大いに盛り上がった。特に、溝口町長など地元の悪たれ鼻たれなど全てを教えた地元長老・中里利夫元校長の当会を称え励ます祝賀の言葉に有り難くも振るい立つものがあった。特別メニューとして鍋奉行班手作りの「ドブロク」を持ち込んだが、旨い旨いと大人気で、そんに煽てられてられりやあ～、来年は「新年会＆ドブロクを飲む会」にすると勝手に決めた。約束の蝦夷鹿の肉も食わせた。



その他の報告1：県との協働事業

- 1) 津久井地区行政センター訪問：12月27日、審査会の許可を得て県(津久井地区行政センター)と話し合いに入るため園田・斎藤・杉原仲間を同行して合庁を訪ねた。小林所長・後藤林務部長・丹羽課長・厚沢主査が待っていてくれた。協働事業の大枠の説明と取り組みの事業のポイントを擦り合わせた。県幹部の方々が我々を一人前に遇して下さる事に緊張を覚えると同時に感謝の気持ちで満たされた。期待されるに相応しい活動内容にしなければならない。
- 2) 企画部／土地水資源対策課訪問：1月12日、斎藤・杉原・千葉(まちづくり研究会)を同行して担当者と話した。以下に県と話し合っている来期事業の骨格を示す。会員の事業参加、意見と提案を求める。



- * わが国の森林が荒れる最も大きな理由は、安い輸入材が入るから国産材が売れない。売れないから森に手を入れない、荒れる…ということだ。国や県が手の打ちようがないのに何んでNPO如きがといわれたりもするが、そんなことでへこたれる我々ではない。上記のような仕組みで取り組んでいる。神奈川県がこれを支援してくれることになった。
- * 実際に自分達の手で材を「搬出し～引き～設計し～建て～売る」。この一連の過程の中で何が問題かを精査して、障壁になることを一つ一つぶして行く。出来るか?、出来る。断言する。当会会員には樵・製材者・設計士・大工・左官・電気・家具建具・市場開発の専門家、全て揃っている。しかも一流ばかりだ。

○ その他の報告2：今年のテーマ：森(つくる)と都市(いかす)をつなぐ

森をつくる／FSC活動に対して、森をいかす／FCC事業を進めるためには、都市部との連携が必要だ。昨年4月来、接触が始っていた“川崎／幸まちづくり研究会”と来期4月からの事業の内容を打ち合わせるために丸茂・斎藤・杉原・林仲間と都市計画の専門家／川島氏と



同会の事務所を訪ねた。千葉代表・有島副代表・原委員・川崎委員が討議の内容を準備して待っていてくれた。課題は、「県産材を流通させる仕組みつくりとそれを都市部で普及する方法」。

「伐出～製材～設計～建築～販売」を実際に自分達の手で実践し、“何が問題か、何が解決策か”を探る。森仲間には、夫々の道の達人がいるからそんなに難しい事ではない。

新たな仲間として自然と共生する都市計画を専門とする川島氏の広い視野と多くの情報・実績、識見が打合内容を密度の高いものにした。またもや、新たなスキル：川島氏の参加（丸茂仲間の紹介）が当会活動を更に内容あるものにしてくれる。

○ その他の報告2：「小原本陣の森」：小原町の人々と話し合った。

1月12日、小原町の3人の幹部の方々（西川町内会長、永井氏、小瀧氏）と「小原本陣の森」とりくみの基本的な話し合いを行った。何故、「小原本陣の森」かは以下に示す。2月：町内会組長へ提案、3月：全体説明会、4月：町の人々と本陣の森を巡回視察・計画立案、森林作業の活動開始。

* 何故、小原本陣の森か

先ず、若柳嵐山の森で緊急を要した7齢級（35年生）以下の植林地の手入れ（間伐・枝打ち）が終了した事。次にあの静かな山里に隔週ごとに60人を越す人々がワアワア集まる事は、隣接住宅地の皆さんにご迷惑である事。緊急整備の終わった今後は「若柳・嵐山の森」は、静かに丁寧に手入れする。

「小原本陣の森」に砂防ダムを作る事になっている。大久保沢を挟んだ区域は白亜3紀に出来た土壌の崩れやすい場所で大地震があると山津波になる恐れがある。沢入り口に小原新興住宅地、JR中央線、中央高速道がある。山津波がこれを襲うと大惨事に繋がる。

大久保沢を溯行して登山道：明王～与瀬ルートを目指して直登すると急傾斜になるが、砂利混じりのグザグザ斜面である。場所によっては土砂がズリ落ちている。ここも7齢級以下の植林地だが手が入っていないため根が張らず斜面全体が弱くなっている。この2点が砂防ダムを作らねばならない理由だ。砂防ダムは、対処療法であってこれを作れば解決と言う事ではない。間伐して混交林か複層林にし、尚且つ間伐木で土砂止めをつくって駄目押しをしておかねばならない。このような事は本来、県や国の仕事だが木が売れないから金が出せないと言う。おかしな話だ。森林NPOの良心として目をつぶっている訳には行かない。

3つ目の理由だが、小原地区には県の文化財に指定されている「県指定文化財／小原本陣」があり新たに「小原の郷」が出来た。旧甲州街道（甲州古道）が小仏峠から下ってここに入る。高遠藩・諏訪藩などの大名、葛飾北斎、松尾芭蕉、明治天皇や板垣退助、近藤勇等の通過した歴史の重要な拠点である。南面の穏やかな山里である。「史跡：小原本陣」は、財政難のため補修ができないでいる。当会は、お金を作る仕組み作りが上手だ。みんなで知恵を出し合って小原地区の自助努力によって資金をつくり「小原本陣」を補修したい。法人として森林地域の活性化を定款にも掲げている。小原町の人々と一緒に取り組む。

* 「小原本陣の森」のもつ意味

小原町との取り組みを「何かやっとるわい」で済ませてはならない。「小原本陣の森」は、沢山の個人の所有者がいる。森が荒れているということは、森の維持・管理・保全ができない、即ち、お金を森に入れるお金がないからだ。小原町の人々は、お金にならないけれども子孫のために森を守ろうと立ち上がった

ということだ。小原町の人々を称えよう。都会から来た森林N P Oが少しお手伝いをさせて頂く光栄を感謝しよう。小原の町が発信源となって全国各地の森林所有者が子孫のために立ち上がる日が近いと予感する。



○ その他の報告3、市民チャレンジ基金

神奈川の草の根運動で知られる「神奈川ネットワーク」が神奈川県内のチャレンジ性あるN P Oとして当会活動を支援してくれる。審査委員長からの指摘は

- 1)組織体制の強化に努めよ。
- 2)自助努力による資金つくりを推進せよ。
- 3)県産材事業の確実な構築を進めよ…と求めている。
- 4)また、全国の森林保全運動が次の段階に進む時期に来ており、その突破口になれ…である。

各方面からの当会に対する期待が年々、高くなっている。市民チャレンジ基金からの助成金は、今年から「森をいかす／F C C 事業」の創出のために使わせて頂く。我々の最終目的は「環境と経済が共鳴する；持続性ある森林経営の可能な森林システムつくり」

● 都会の普通の人々による国際認証の森つくり

* 12月定例活動終了後の全体運営会で示した内容

わが国で森林組合や行政の手による国際F S C認証の森は現在16ヶ所、世界に約500ヶ所ある。こんなことに何故、挑戦するかと言うと「空気・水を供給してくれる森林は、特定の人々のみが考えることではない」と思うからだ。だから、認証取得が目的でなく森を守る手段としてこの8年、“無理せず、急がず、休まず、ボチボチと…”取り組んで来た。申請は、“雨でも休まず”コツコツと積み上げて来た結果である。

認証は、10の原則と56の細則、250ばかりのチェックをクリヤーすることが求められる。認証機関からの予備審査指示を概括すれば以下のようになる。

- a、申請者がF S Cの要求事項を良く理解していること。
- b、利害関係者がガイドラインの要件を了解していること。

c、以下の文書を保持し理解していること。

- 1、森林関係の国際法・国内法を理解していること：膨大な量だが“自然を大切に思う気持ち”が根底にあれば難しくない。全部、読んだ。
- 2、活動の方針書をもっていること：ある。基本的なことは法人の定款に定めている。
- 3、組織構成・責任・権限文書：同上
- 4、教育訓練：組織的には未だ、不十分。組立てる必要あり。
- 5、林境・地図：大体掌握している。再確認の必要
- 6、環境保護に関する制限事項：掘り下げて検討しなければならない。
- 7、広報印刷物：月次のニュースレターやHPで公開している。
- 8、管理計画：着手している。もう少しで完成する。
- 9、林地使用権文書：あり、再確認する
- 10、利害関係者リスト：確認して作成する
- 11、使用科学物資リスト：使用せず。今後共、使わない。

これらの情報は、全会員の共有するところでなければならない。そこで、FSC推進班(獣・林・鳥)でHPあるいはMLインターネットでの情報公開をする作業を進めている。内部資料、外部公開資料を別けて公開する。以下に取り組んでいる。

- 1、証憑書類の閲覧体制
- 2、全ての書類の文書化
- 3、必要事項の情報公開 … 財務諸表・地域情報・英訳でもインターネットに乗せる。

4月17日に認証機関が予備審査に来る。認証されるかどうかは我々の自覚次第。県の協働事業は3回の挑戦でクリヤーできた。そして、確実に成功する方法がある。即ち、成功するまで挑戦することだ。簡単。

○ 新春を寿ぐ会／1月8日(第一土曜日) … 森を称え痛飲した：杉原



土地では15日まで森作業はしない“しきたり”があると聞いた。だが、森を待ちきれない仲間たちは、放っておくと作業に入りかねないので「保険はかけていないからな、怪我は自分もちだぞ」と言って“新春を寿ぐ会”と名付けて集まる事にしている。…んでこの日、やっぱ、22人が手元に自分のお神酒とお節を持って集まってきた。以下、11月から参加の杉原仲間の報告。

今年は第一土曜日は元旦にあたるため、8日(土)が最初の活動日、この日、山仕事はなく、いわば森仲間の新年会らしい。お節の残りやお神酒を持って集まり、山の神様に今年一年の山仕事の無事を祈る

のがしきたりになっているという。

山仕事がないので、はたして何人集まるだろうと思いながらもいつもの活動場所へ。

驚いたことに、すでに数人の仲間がたき火が燃え盛り、周りの机上にはお神酒類やご馳走が並び、皆さんやる気ムンムンの雰囲気にあふれている。

石村仲間の発声で「今年もよろしく」の合唱。今年一年の活動を誓い合う。いろいろ新年会を経験しているが、これほど大勢の人が野外でたき火にあたりながらの賀詞交換は清々しく新鮮である。軟らかな冬の日差しと冷たい風か心地良い。皆さんのそれぞれに、壮大な夢とロマンの語らいが森に流れた一時であった。

園田総隊長と俺いら、小原町内会との話し合いのため直ぐ、出かけたので「寿ぐ会」に出れず話し合いが終わって森に戻ると、みんな出来上がってしまって「さあ、ボチボチ帰るか…」という状態。そりゃ、切ないぜ。身体がウズウズしているらしい仲間が林道の雪かきをやっていた。杉原仲間の報告にあるように森はあらゆる可能性を示してくれる。

○ 商品開発会議：1月18日、於／狛江：松山昌子お花店

「環境と経済は矛盾しない」を具現化する行動として昨年から森林資源の有効活用による「商品開発会議」を立ち上げている。この話し合いから「支援：シエン」なる当会独自の価値単位が生まれたりしている。今期は、流域材の新しい建築手法(スケルトンログ工法)の導入や従来の流通の常識を破る手法開発に取り組む。このために「伐出～製材～設計・デザイン～建築～販売」の一環取り組みを試みる。出来るか。出来る。当会には、これを進める一流の熟練者が会員で構成されている故。

○ 国土交通省・JTBとの話し合い：12月15日、1月20日

国土交通省が相模川流域(特に豊川・鶴の川)地域活性化の調査のため当会の考え方をヒヤリングした。また、JTBも観光資源として相模湖と森林にその可能性があるかを聞きに来た。

国の「公益性・多様性」に呼応している様々な森林の可能性に挑戦している当会活動に何か新しい森林の光明を見出だそうとしているのだ。森林の保全・再生のため当会は、国とも企業とも喜んで力を合わせる。

○ 訪問授業：望星高校：1月21日

森林仲間の宮村さん(望星高校教諭)の要請で高一学級の臨時講師を斎藤さんと石村で務めた。子供たちの熱心でひたむきな勉学態度と予想もしない自由な発想に驚かされる。子供たちに逆に教えられる場面も多々あるが教えると言う事の難しさ大切さをつくづくと感じる貴重な一日であった。

○ 自然環境保全センター：1月25日

丹沢大山新総合調査研究会で知り合った実際に県の森林現場を守っている部署の原田副所長(企画管理課)と意見の交換をしたいと思っていたが、それが適った。外からだけでなく森の現場を守る人の立場でいろんな話を聞かせて頂いたが参考になる貴重な話ばかりで今後の我々の森林活動に生かす事が出来る。

また、田口県有林部長からは県有林の現状、安西自然公園課長からは、陣馬・相模湖自然公園域内にある小仏峠など甲州古道復活事業に必要な手続きや「小原本陣の森」に取り組む心構えなど様々な情報の提供とご指導を受けた。

与瀬宿の地名の由来

古書「相模の国風土寄稿」にこの辺り、吉野、与瀬、小原という地名は彼の地を模したものなりとう」と記されています。

時代は今から1200年にさかのぼります。天台宗の隆弁僧正が諸国遍歴の途路、相模川の北岸の地吉野、与瀬、小原は奈良の吉野や京都の八瀬、大原に似通うので「吉野」「小原」と名付けたといわれます。相模湖東岸の海拔405メートルの千手山も京都の嵐山に似ているので「嵐山」というようになったのもこの時代です。

与瀬が似通う八瀬は、京都の山城国愛宕郡八瀬で、現在の京都市左京区八瀬です。京都御所より3里比叡山の登山口で大原に至る途中です。

八瀬は、近世まで林業と農業を兼業していました。往時は洛中（京都市内）へ杉・檜の黒木を供給していました。八瀬は比叡山山麓で森林の多い所です。与瀬も往時から日向郷といわれ杉・檜の産出地で地形的にも生業的にも似通っています。

与瀬の地名の由来には、もう一説があります。相模湖の出現によって湖底に沈んだ相模湖対岸の山並み側は、勝瀬集落と広大な水田地帯でした。北岸の与瀬地区は、湖底の勝瀬橋へ至る県道与瀬停車場とその北側の河岸段丘と南岸の僅かな川岸でした。

与瀬の与は、「与える」「くみする」「仲間になる」という意味があります。勝瀬集落と広大な水田地帯の南岸に対して、相模川の流勢が北岸の河岸段丘崖の際にある事から、南岸の勝瀬に「くみする」「与える」ので「与瀬」という地名になった地形説があります。古書による八瀬に似通う因縁説と勝瀬にくみする地形説共に与瀬の地名の由来と言えましょう。

次回は、与瀬宿の地勢と集落の歴史について記述します。

(文責 中里)

*活動の充実とそれを支える仲間が急速に増えている。

県との協働事業が始まる。また、7年がかりの「FSC国際認証／申請書」を提出した。このような事に直接に関係ないが、若手・熟年の森仲間が続々と活動を支える体制を組んでくれている。もしかしたら事務局が頼りない事が原因かも知れない。それにしても「全ての人々との協働」が活動のがこの活動の特徴だから、収まる所に収まっているという事だろう。

石村

- 2月 5日(第一土曜日) 森林整備
極寒の森作業はつらい。つらいから良い。
- 2月 20日(第三曜日) 里山交流
ボチボチ春の芽吹きも見える。嬉しい。
- 2月 26日(第四土曜日)
いよいよ本格的な兆しあり。藤野町で話し合い、道標位置を歩きながら検討する。
- 協働 セブン-イレブンみどりの基金
団体 神奈川県（津久井森林保全課・土地水資源対策課）
- * HP : <http://www008.upp.spp-net.jp/kitasagami>
- * 支援団体：WWFジャパン、WWF日興インベスターズ基金、損保ジャパン環境財団、イオン財団、日本財団、神奈川市民社会チャレンジ基金、

モットー／休まず・無理せず・楽しく、ボチボチと
そして、沢山のご意見、参加下さい。
名 称／さがみ湖・森つくりの会
N P O 法人緑のダム北相模／森林部会
事務局／〒154-0023 世田谷区若林3-35-9
T&F 03-3411-1636 : 石村事務所内
発行者／事務局 石村黄仁
N P O 緑のダム北相模の森林保全活動は左記の団体との
協働事業として実施しています。